

支部長挨拶

濱田 豊



令和3年5月30日の2021年度総会にて「西東京市地域支部長」に再任されました、1970年政治経済学部卒の濱田 豊です。

当地域支部は2005年7月に設立され、初代の有賀支部長、二代目の水井支部長を始め、諸先輩方の多大な努力によって今日まで参りました。私は今年で三年目の任となりますが、これまでと同じく会員目線で物事を考え、皆さまからの素朴な願いを拾い上げ、実現すべく地道な活動を続け

て行きます。これには皆さま方のお力添えが必要ですので、どうぞよろしくお願い致します。

明治大学で学んだ同窓の皆さまが近所に住まわれていることは何より心強く、下駄履き付き合いができることはとても幸せです。この絆を大切にしています。そして東京都北部支部の仲間である板橋、豊島、練馬、北、荒川、文京の各地域支部の方々との交流を深化し、西東京で活動する他大学校友会の皆さんとも交流を密にする事で地域の問題を解決する一助になればと考えています。そのためには風通しの良い組織運営を継続し、会員それぞれが役割実務を分担する全員野球によって活動を進め、会の更なる発展を目指します。こうした活動の結果が、母校の発展に幾ばくかでも寄与するものと信じて疑いませんし、直接間接を問わず学生諸君を応援することになると思います。

幹事長就任にあたって

伊藤 和明



1969年(昭和44年)商学部卒の伊藤 和明です。長野県飯田市出身です。在学中、1・2年は専らバイトで小遣い稼ぎ、3・4年は 清水 晶ゼミナールで マーケティングを勉強しました。3月に濱田支部長から2021年度の幹事長のご指名を受けましたが、2018年にいこいの森での「西東京市民まつり」で 明大校友会(西東京紫紺会)に入会してまだ3年弱、私にはちょっと荷が重すぎますと一旦はお断りしましたが、支部長のご意向に背くことは、会の運営に支障をきたすのでは? と思い、微力ながら幹事長の大役をお受けする事と致しました。幹事長として、西東京紫紺会

会員の皆様のご期待にどこまで添えられるか分かりませんが、役員委員の皆様のご支援を得て、職務を全うしたいと思います。副幹事長の林 敦子(のぶこ)さんのご協力も宜しくお願い致します。前任の熊田 順一さんから、昨年 12月の忘年会及び本年2月の新春交流会の世話役を依頼され、会場の設

定(武蔵野食堂)及び(墨家居)、日時、参加人数を計画し先方と打ち合わせしましたが、残念ながら コロナ禍で中止せざるを得なくなりました。秋には、コロナ感染が落ち着く事を期待して、いこいの森での BBQ 懇親会を計画したいと思います。

私の学生時代



『平凡でも楽しかった私の学生時代』

平田 佳子 (昭和 60 年 文学部卒)

1980年文学部ドイツ文学科、いかにも堅そうなクラスに入りました。 ころうじて合格した喜びもつかのま、英語でさえもおぼつかない私が初めてのドイツ語を学ぶことになり非常に苦勞しました。テストの日はカンニング仲間とかたまって後ろの席に座ったものでした。優秀な人は、テストも授業も前の席に座っていました。



成績は、可、不可だらけの劣等生ではありましたが、トマス・マンやヘッセの作品は(当然翻訳版でしたが)読んでみると、あのおどろおどろしい暗さにのめりこんでしまい、当時流行っていたテニスやサーフィンとは全く逆の、不健康な世界に憧れたものでした。今思えば、大人のふりをしたい子供だったのだと思います。 だらしない私のこと、恥ずかしながら、再履修が続き、1限は駿河台校舎、3限は泉校舎、5限はまた駿河台校舎と、行ったり来たり、自業自得でしたが、卒業間際まで忙しかったです。

楽しみといえば、同級生と吉祥寺や歌舞伎町にお酒を飲みに行くことで、門限を破っては「女の子がいつまで遊び歩いているのよ！」と母に怒られて、ドアチェーンをかけられ締め出されたこともしばしばでした。この歳になってみると、親の言うことは正しかったとわかるようになりました。 当時は空前の女子大生ブームで、女子大生をスタジオに呼んでトークさせる「オールナイトフジ」というバラエティ番組が流行っていました。女子大生パブが流行り、かわいい同級生たちは、アルタ前でよくスカウトされていましたが、残念ながら(?)私には声がかかりませんでした。

思い出深いのは、なんと言っても六大学野球。私の時代は広沢克己氏の活躍により優勝し、 絵画館前から駿河台まで、大騒ぎしながら提灯持って練り歩きましたが、若かったからできたことで今はあんなに長時間歩けないでしょう。提灯行列は、一般の通行人やドライバーには迷惑な行為でしたが、あのころはまったく気にしていませんでした。「今の若者はまったく！」などと偉そうに言えません。

もう一つの思い出は、神保町にあった老舗のジャズ喫茶「響」でバイトして、優しいマスターご夫妻、お嬢さん、そして近隣の他大学のバイト仲間たちと知り合えたことで部活みたいで楽しかったです。ジャズ喫茶のイメージは暗くて不健康で不愛想だと思われがちですが、あの店は、接客態度にかなり気を使い、店をのぞいて、混んでいるからあきらめて帰ろうとするお客様を追いかけ、相席をお願いして席を作るような、温かみのある店でした。

私はとても平凡な女子大生でしたが、一つのことを思い出してみると、あれもこれもと、ここでは語りつくせない思い出がたくさんよみがえります。

卒業後は、同級生との縁も次第に薄れて長い時が過ぎてしまいましたが、2015年に福生市から西東京市に移り住み、たまたま西東京市民祭の明大ブースを通りかかり、懐かしいと思って立ち止まったら、役員の方に声をかけていただき、それがきっかけで、皆様とご縁をいただき感謝しております。今後ともどうぞよろしく願いいたします。



『色々な経験ができた学生時代』

松本 良一（昭和50年 政治経済学部卒）

板橋区で生まれ育ち、練馬の大泉学園に結婚して家をかまえました。

2014年老後のことを考え、思い切ってマンションを終活の場所に住み直しました。自分の大学生活は、非常に地味と言って良いと思います。

大学入学すぐの1年経済学史の講義は、高校の世界史と全く変わらず何のための授業かと思ったりして、なかなか意欲のわからない自分にエスケープして麻雀もよくしました。

英会話に興味を持ち2年の時、2つのバイトで貯めたお金でサンフランシスコの学校に約2か月短期の語学留学へ行きました。とは言ってもこの中ではゴールデンゲートブリッジ・ケーブルカー・デズニーランド・アメリカ第2位のカジノ:リノなどの観光もできました。

到着した宿舎で、ドアの鍵を部屋に置いたまま出かけ締め出しをくらい、同室の友人が非常ベルを鳴らして大騒ぎとなり散々な初日となってしまいました。講義は地元の大学生が講師となり、日常英会話を中心に対話形式の授業でした。ある日のパーティーは、地元の学生・地元の住民が集いお約束のようにマリファナもありました。自分は怖さもあって吸う振りをしていただけでした。そんなこんなでいろいろな経験ができました。講義の後には、キャロルキングの You've Got a Friend を歌って終了。今でもこの曲を聴くとこの時代を思い出します。

その後何の起伏もなく卒業、今に至っています。

まだ西東京市には不慣れですが、健康に留意し皆様に色々教えを請いたいと思っております。宜しく願い致します。



◆ 秋のゴルフ会のお知らせ ~ゴルフ同好会より~

武蔵野の面影を色濃く残す素晴らしい環境の中で、プレーを楽しみませんか



- 実施日： 10月12日(火)
- 集合時間： 現地に8時30分
- スタート時間： 9時3分
- 場所： 高根カントリー倶楽部 埼玉県比企郡滑川町福田4045 Tel. 0493-56-2511
<https://www.takane-cc.co.jp/>
- 費用： 食事付きで13,000円
- 申込及び問合せ先： 飯倉英行 Tel&Fax 042-423-1552、携帯 ☎ 090-9138-8466

